

どれが優れているという順位はありません。体の状態と暮らし方に合わせて一緒に選びます。

Q 3つは何が違うのですか

目的はどれも同じで、甲状腺ホルモンを作りすぎない状態にすることです。ただし体への働き方が違います。

飲み薬



甲状腺はそのまま残り、
ホルモンを作る量だけ抑えます

アイソトープ治療



甲状腺が小さくなります。
あとでホルモン薬が必要に
なることが多いです

手術



甲状腺のほとんどを取り除きます。
ホルモン薬が必要になります

薬は甲状腺を残したまま抑えます。あとの2つは甲状腺そのものを減らすので、結果も変わってきます。

Q 長所と短所を教えてください

治療	長所	気をつける点
飲み薬	外来で始められる。甲状腺を残せる	効果が出るまで時間がかかる。やめたあと再発することがある
アイソトープ	カプセルを1回飲むだけ。外来で受けられる	受けられる施設に限られる。効果が出るまで数か月。妊娠・授乳中は受けられず、治療後も半年はあける
手術	最も確実に早い。大きな甲状腺にも向く	入院と麻酔が必要。首に傷が残る

アイソトープ治療と手術のあとは、甲状腺ホルモンの薬を飲むことが多くなります。甲状腺を減らす治療なので、働きが弱くなるためです。

一度必要になれば、その後はほぼ確実に生涯の内服となります。足りない分を補うだけの薬で、1日1回。量が決まれば負担は大きくありませんが、治療を選ぶ前に必ず知っておいていただきたい点です。

アイソトープ治療のあとは、2～3日のあいだ、小さなお子さんや妊娠中の方と長時間ふれあうことを控えていただきます。会えないわけではありません。

Q 何をふまえて選びますか

- ・ 甲状腺の大きさ — 大きいと薬が効きにくく、手術が向くことがあります
- ・ 妊娠の希望と時期 — 時期によって選べる治療が変わります
- ・ 目の症状 — 眼症がある場合は治療の選び方に影響します
- ・ 年齢や持病、通院のしやすさ

Q 途中で変えられますか

変えられます。まず飲み薬から始めて、効果が足りないときや副作用が出たときに、アイソトープ治療や手術へ切り替えるのはよくある流れです。

最初の選択がすべてを決めるわけではありません。迷っているときは、そのままお伝えください。